

世界に誇れる、ものづくり

2023年12月期第2四半期

決算説明資料

湖北工業株式会社

2023年8月9日

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

目次

- I. 2023年12月期2Q（累計）決算概況…………… P. 2
2023年12月期 業績見通し
- II. セグメント別の状況…………… P. 14
- III. その他 …………… P. 34
- IV. 参考情報…………… P. 37



**I. 2023年12月期2Q（累計）決算概況
2023年12月期 業績見通し**

2023年12月期(2Q累計)のハイライト

- ・リード端子事業において売上が想定以上に悪化。情報通信機器市場の低迷による部材の在庫調整深刻化と、自動車用エレクトロニクス市場における予想外の調整が影響。不採算アイテムの全般的価格是正実施、収益構造改善への大きな成果
- ・光部品・デバイス事業において、海底ケーブル向け光デバイスの売上は、サプライチェーン混乱の影響が残る。陸上用光通信デバイスについてもデータセンター用途の売上が低迷

● マクロ環境

- ・ 世界経済は、アフターコロナの流れの中、小売・サービス業等の一部で改善の動き
- ・ エネルギー価格の高どまりなどによる物価上昇や、長期化するロシア・ウクライナ情勢の影響
- ・ 中国における消費性向や不動産価格の低迷による経済の悪化懸念

● 事業環境

- ・ 中国に加えて、欧米地域でEVの販売が急速に伸びる
- ・ 欧米地域においてEVの販売が急速に伸びる
- ・ 半導体不足に端を発した自動車用電子部品市場の混乱により、一部過剰在庫が発生
- ・ PCをはじめとする情報通信機器市場などは、昨年夏からの厳しい状況から回復せず
- ・ 海底ケーブル市場向は、昨年夏からのサプライチェーンの混乱による影響が残る

● 業績 (2Q累計)

- ・ 市場環境悪化の影響を受け、売上は前年同期比11.7% (△934百万円) の減収
- ・ 営業利益については、売上減少により前年同期比17.4% (△356百万円) の減益

損益計算書(2Q累計)の概要

顧客の在庫調整などの影響を大きく受け、減収減益にて着地

(単位：百万円)

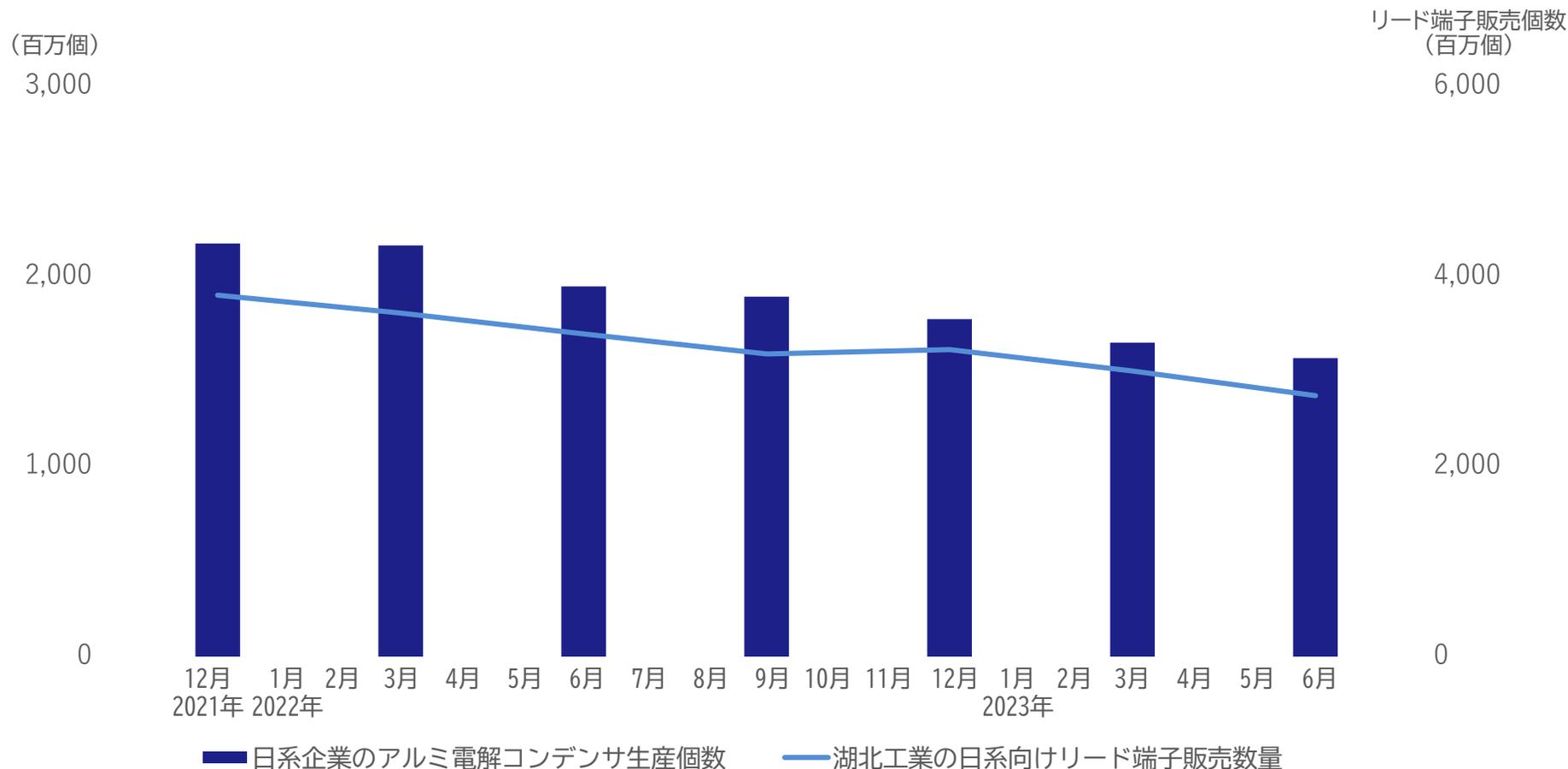
	2022.12期	2023.12期		2023.12期				
	2Q累計 (1月-6月)	2Q累計 (1月-6月)	前年同期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	直前四半期比	
売上高	7,958	7,023	△934	△11.7%	3,521	3,502	△18	△0.5%
リード端子事業	4,204	3,789	△415	△9.9%	1,864	1,924	+60	+3.2%
光部品・デバイス事業	3,753	3,234	△518	△13.8%	1,656	1,577	△78	△4.8%
営業利益	2,042	1,686	△356	△17.4%	846	839	△6	△0.8%
営業利益率	25.7%	24.0%	△1.7pt	—	24.0%	24.0%	±0pt	—
経常利益	2,731	2,185	△546	△20.0%	882	1,302	+419	+47.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,817	1,344	△473	△26.0%	564	779	+214	+38.0%
為替レート (期中平均)	123.15円/\$	134.99円/\$			132.40円/\$	137.49円/\$		

- ・売上高の減少に伴い、固定費比率が上昇し、2Q累計(1-6月)の営業利益率は24.0%まで低下
- ・営業外収益として為替差益527百万円(前期2Q累計650百万円)を含む

2023年12月期(2Q)の事業環境

日系企業のアルミ電解コンデンサの生産個数は、昨年夏からの悪化傾向が続く

小型アルミ電解コンデンサ 市場生産推移（日系）（海外生産分を含む）



※数字は各月単月の数字。

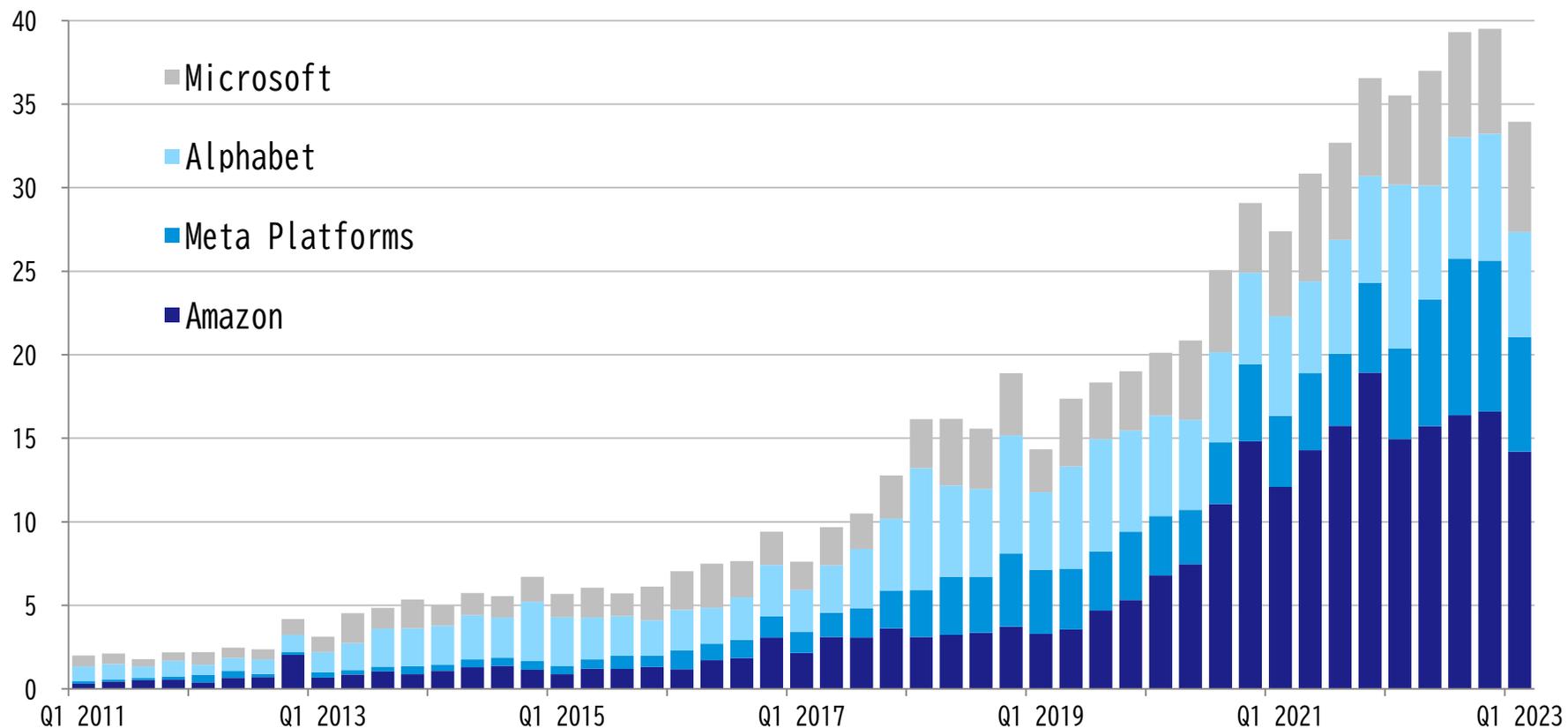
(出所：湖北工業調べ)

2023年12月期(2Q)の事業環境

海底ケーブルの投資を積極的に行ってきたGAFAMの投資抑制が2023年から顕著に

GAFAMの設備投資(Appleを除く)

(十億ドル)

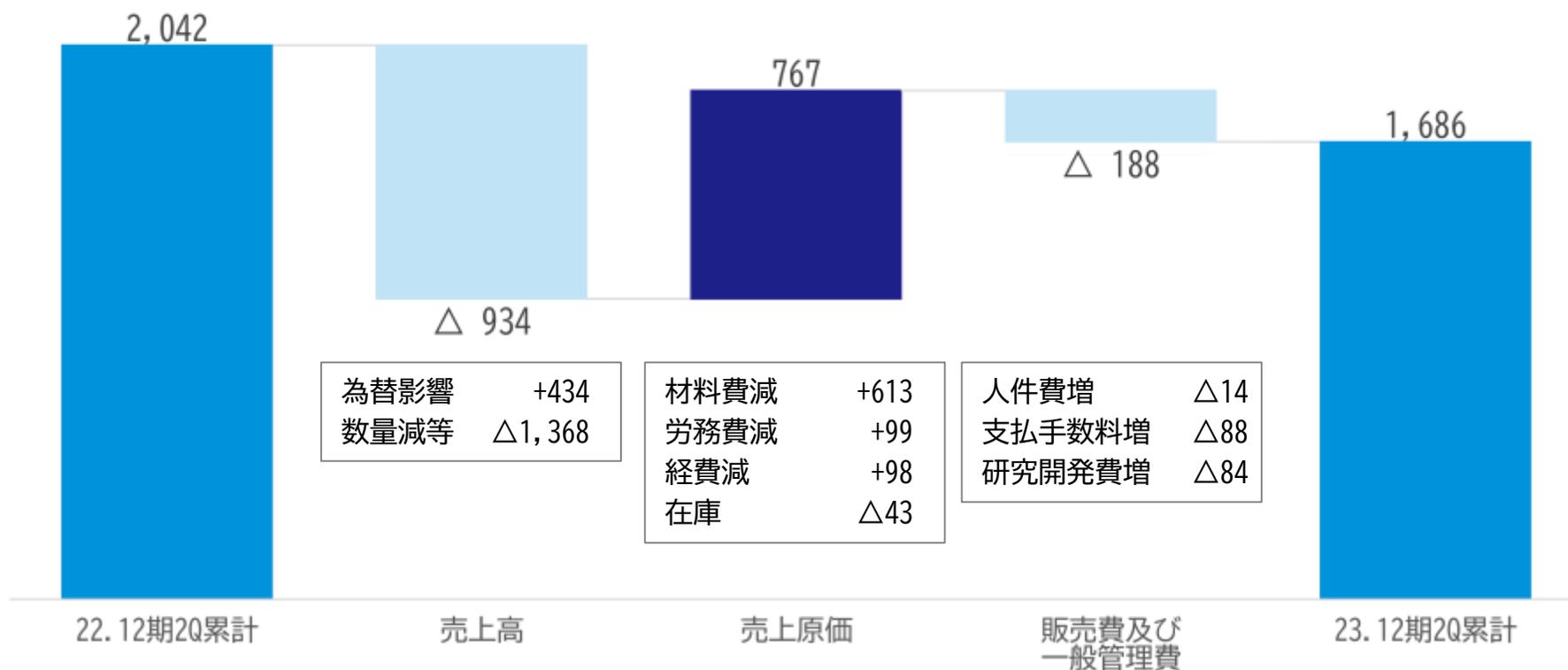


(出所：会社資料)

営業利益(2Q累計)の増減要因 (前年同期比)

売上総利益率の改善により、売上減少に対して減益幅は小幅にとどまる

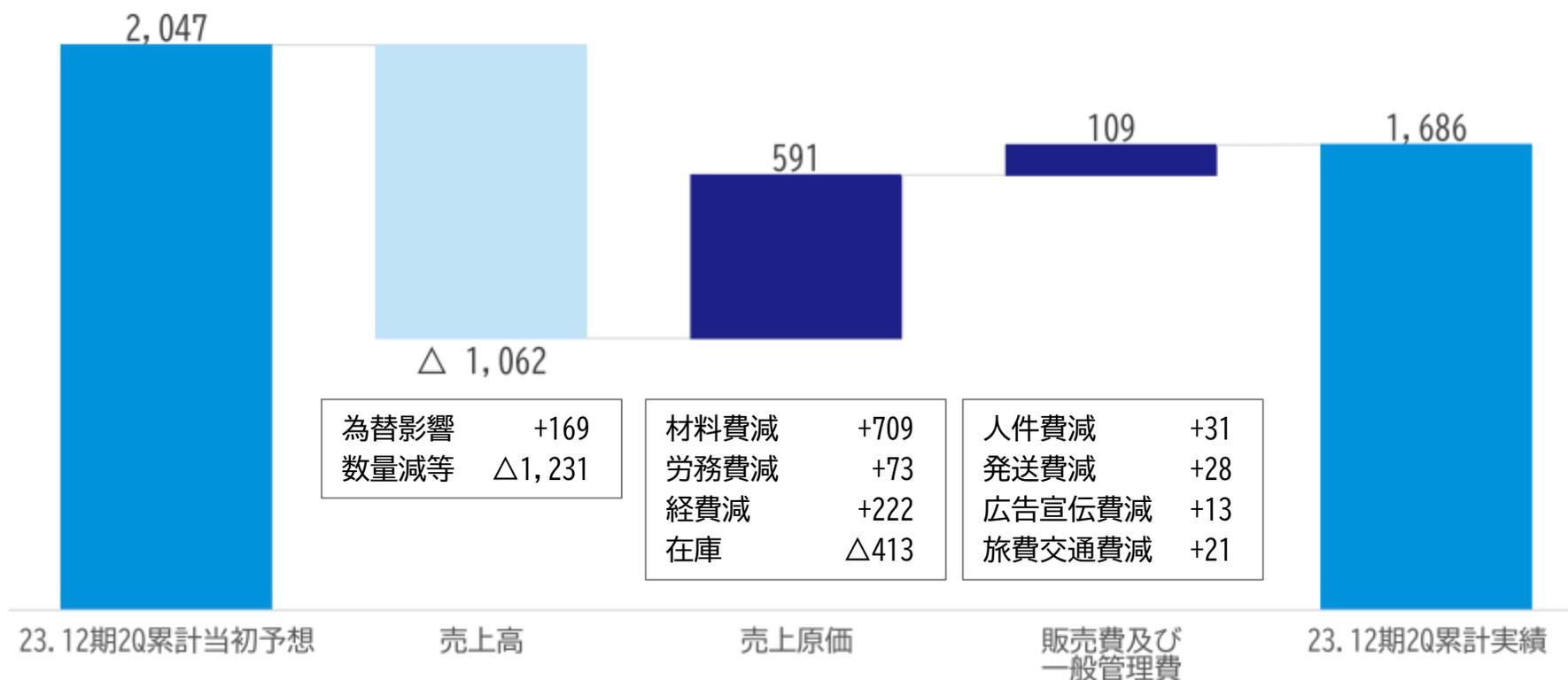
(百万円)



営業利益(2Q累計)の増減要因 (当初予想比)

予想より市況の落ち込みが大きく、売上の減少が大きく影響したものの、材料費・経費の減少で一部挽回

(百万円)



貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要(2Q)

負債の減少により、自己資本比率が77.7%に上昇

(単位：百万円)

貸借対照表	22.12期末	23.12期2Q末	増減額	主な増減項目
流動資産	17,227	17,320	+92	製品 +331 現金及び預金 △224
固定資産	7,057	7,894	+836	建設仮勘定 +480 無形固定資産 +106 機械装置及び運搬具 +186
資産合計	24,285	25,214	+929	
流動負債	3,375	3,220	△155	短期借入金 △95 1年内返済予定の長期借入金 △68
固定負債	2,613	2,407	△205	リース債務 +62 長期借入金 △308
負債合計	5,988	5,628	△360	
純資産合計	18,296	19,586	+1,290	利益剰余金 +849 為替換算調整勘定 +410
負債・純資産合計	24,285	25,214	+929	

キャッシュ・フロー計算書	22.12期2Q累計	23.12期2Q累計	23.12期2Q累計の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	1,197	1,510	税金等調整前四半期純利益 +2,147 法人税等支払額 △571
投資キャッシュ・フロー	△553	166	定期預金の払戻による収入 +1,031 有形固定資産の取得による支出 △792
フリーキャッシュ・フロー	644	1,676	
財務キャッシュ・フロー	△1,422	△1,044	配当金の支払額 △494 長期借入金の返済による支出 △376
現金及び現金同等物の増減額	△455	776	
現金及び現金同等物の期末残高	10,496	10,139	

2023年12月期業績の見通し

光部品・デバイス市場はサプライチェーン混乱の解消や新海底ケーブルプロジェクトなど明るさが見え始めた。一方で、アルミ電解コンデンサ市場の調整が続き、下期業績予想は下方修正

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期 (計画)			
	実績	通期当初予想	通期修正予想	通期修正予想の前期実績比	
売上高	15,673	16,494	14,490	△1,182	△7.5%
リード端子事業	8,384	9,162	7,508	△875	△10.4%
光部品・デバイス事業	7,289	7,331	6,981	△307	△4.2%
営業利益	3,884	4,121	3,411	△473	△12.2%
営業利益率	24.8%	25.0%	23.5%	△1.3pt	—
経常利益	4,443	4,084	3,363	△1,080	△24.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	2,819	2,157	△909	△29.7%
1株当たり当期純利益 (円)	346.14	313.41		<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益40百万円/円	
為替レート (期中平均)	131.64円/\$	130円/\$	130円/\$ (下期)		

現在の状況と今後の見通し

<売上高面>

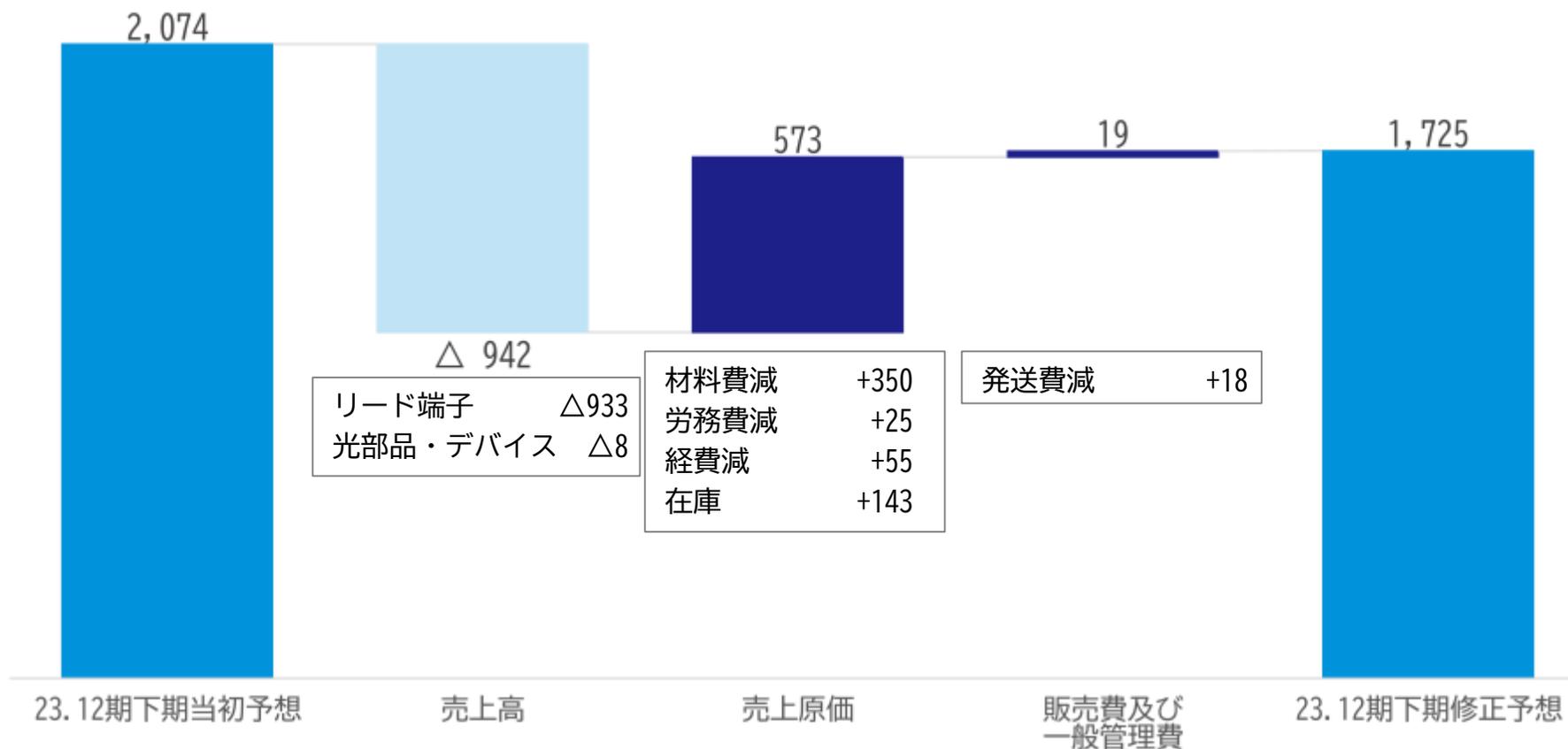
- ・ リード端子事業において、上期の厳しい状況が現在も継続。現時点においては、年末まで調整が続くと想定
- ・ 光部品・デバイス事業では、陸上用光部品は厳しい状況が続く見通し。海底ケーブル向け光デバイスは、長期一括受注がプラス要因、コンソーシアム系とみられる海底ケーブルの新規案件が出ている

<利益面>

- ・ リード端子事業は、価格見直しが改善要因として寄与。売上減少によるマイナス分の下支え要因として期待
- ・ 光部品・デバイス事業は、プロダクトミックス変化による利益率改善要因が寄与。売上減少によるマイナス分の下支え要因として期待

2023年12月期業績の見通し 下期予想の変更点

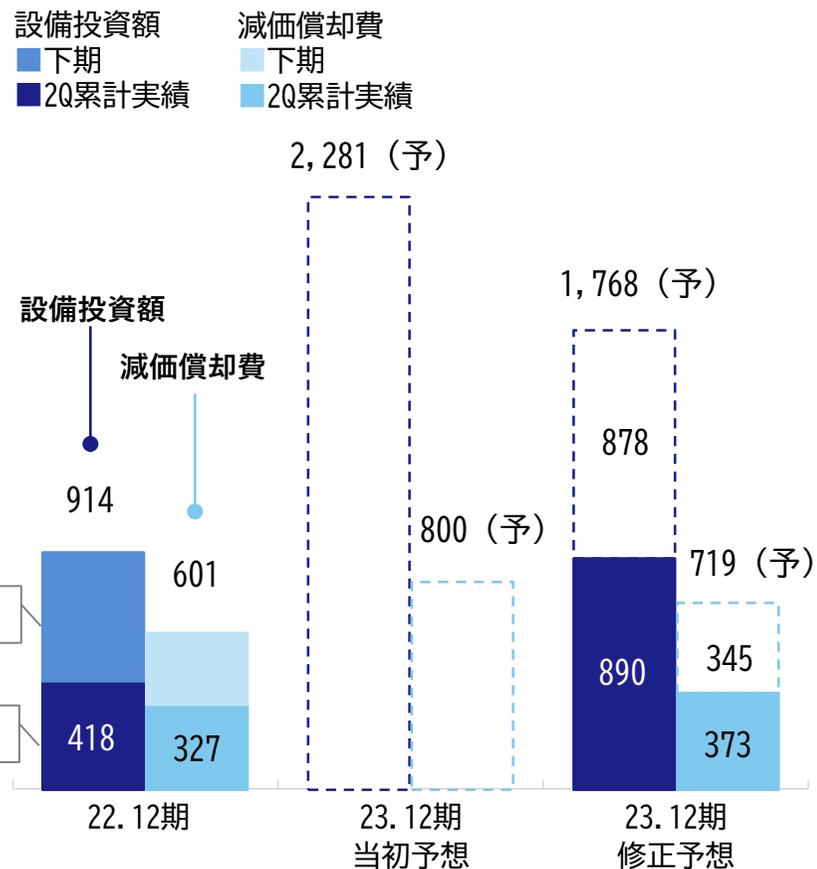
在庫調整の長期化懸念、売上原価削減を勧告し、当初予想比349百万円の下方修正



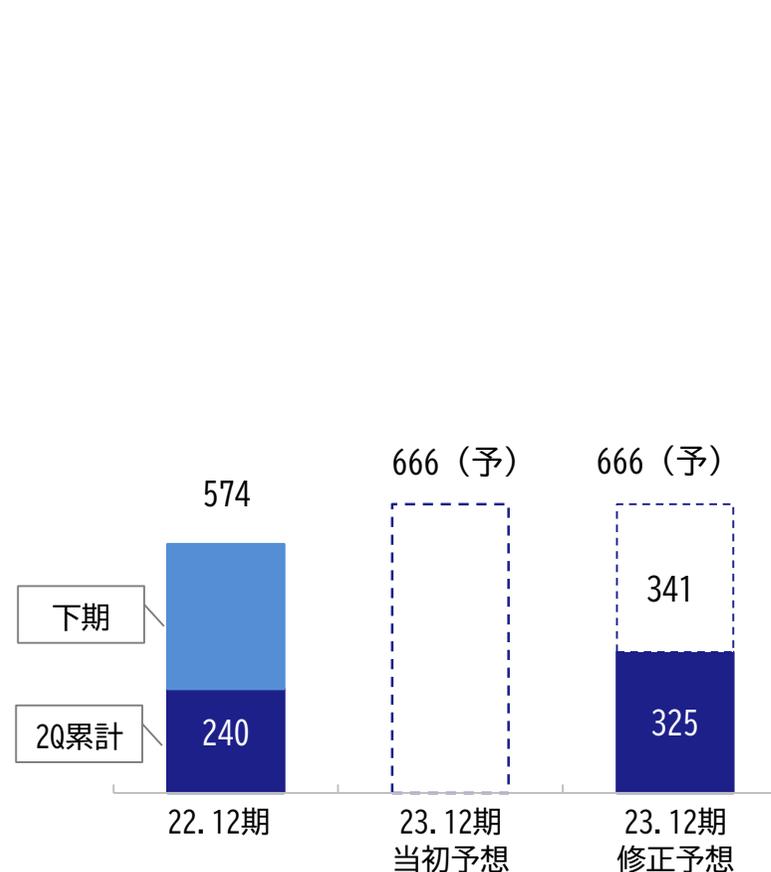
設備投資・研究開発費

市況悪化の長期化を考慮し、不急の設備投資を一部延期

設備投資・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



※計画変更なし

中期経営方針に関する進捗状況

・ 基盤事業(リード端子)の収益力強化を実現する

- 2023年4月から、不採算アイテムについての価格是正を実行
- 新商品売上比率引き上げ、EDLC向けが拡大するも主力の「バリレス」の評価に時間

・ 成長事業(光部品・デバイス)のシェア拡大と新製品開発を実現する

- 海底ケーブル敷設各社の開発計画に合わせて、全方位の製品開発が順調に進捗
- 2030年以降のMCF普及を見据えた研究強化、成果発表等実施（KDDIと共著の論文など）

・ コア技術を活用した次世代事業を育成する

- 高純度石英ガラス製品の事業化に向けて、製造技術開発と顧客対応を継続
- 紫外線用非球面レンズの量産供給を23年7月から開始

・ 経営管理体制を強化し、強固な利益体質を構築する

- 非財務に関する活動推進体制を強化、サステナビリティ推進組織を設置
- IT基幹システムの再構築、サイバー攻撃対応など、内部管理体制強化を推進

Ⅱ. セグメント別の状況

セグメント別業績(2Q累計) - リード端子

欧州車載関連市場で、想定外の調整が続くが、営業利益率は改善傾向

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期			2023年12月期			
	2Q (1月-6月)	2Q (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	4,204	3,789	△415	△9.9%	1,864	1,924	+60	+3.2%
営業利益	178	157	△20	△11.6%	28	128	+99	+346.1%
営業利益率	4.2%	4.2%	±0pt	—	1.5%	6.7%	+5.1pt	—

2023年12月期 (2Q累計) の概況

● 市況回復の遅れによる厳しい事業環境

- 自動車生産は回復傾向となったが、過剰在庫の適正化に伴い、実需の回復が遅れている
- 情報通信機器市場は昨年からの在庫調整が続き、PC等IT関連機器向け売上も低調

● 当社の状況と収益改善への取り組み

- 不採算製品の価格見直しについて、全顧客と原則合意、4月から価格改定を実行
- 新商品「バリレス」は、従来品の「ノーバリ」との差別化評価に時間を要し、採用拡大が遅れている
- 高効率・高精度を実現する新しい溶接技術、金型技術の開発への取り組み

市場環境、経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	当初（2月時点）コメント	現時点の状況
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 (主に日系顧客の状況)	● 2023年は、2022年に対して車載向けは半導体不足が続き今年前半は微増、後半は回復、非車載分野は微減と予想	➢ 半導体不足は、解消に向かっているが、アルミ電解コンデンサの過剰在庫の解消は年末までかかる見通し
	● 通信機器分野は、中国市場の回復遅れで、今年前半は厳しい状況が続き、下期から少しずつ回復と予想	➢ 中国の景況悪化もあり、情報通信機器市場のコロナ特需の反動減が年内は続く見通し
(2) 用途別の動向	● 自動車市場向けハイブリッドコンデンサが約30%増（一部既存市場を置き換え）	➢ 中国、欧州自動車市場向けの需要が増加せず。ハイブリッドコンデンサの生産能力増強投資（2024年に、現在の1.5~2倍に能力拡大）が加速するが、足元の需要は低迷
	● 自動車市場は全体は微増だが、EV市場は大きく伸びると想定される	➢ 自動車の回復が遅れる欧州、中国において新エネルギー車は順調に拡大
	● ICT市場について、PC、サーバー、スマートフォン市場は今年前半までは低迷が続く	➢ PC、サーバー、スマートフォン向けは厳しい状況が年末或いは来年前半までかかる見通し

市場環境、経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

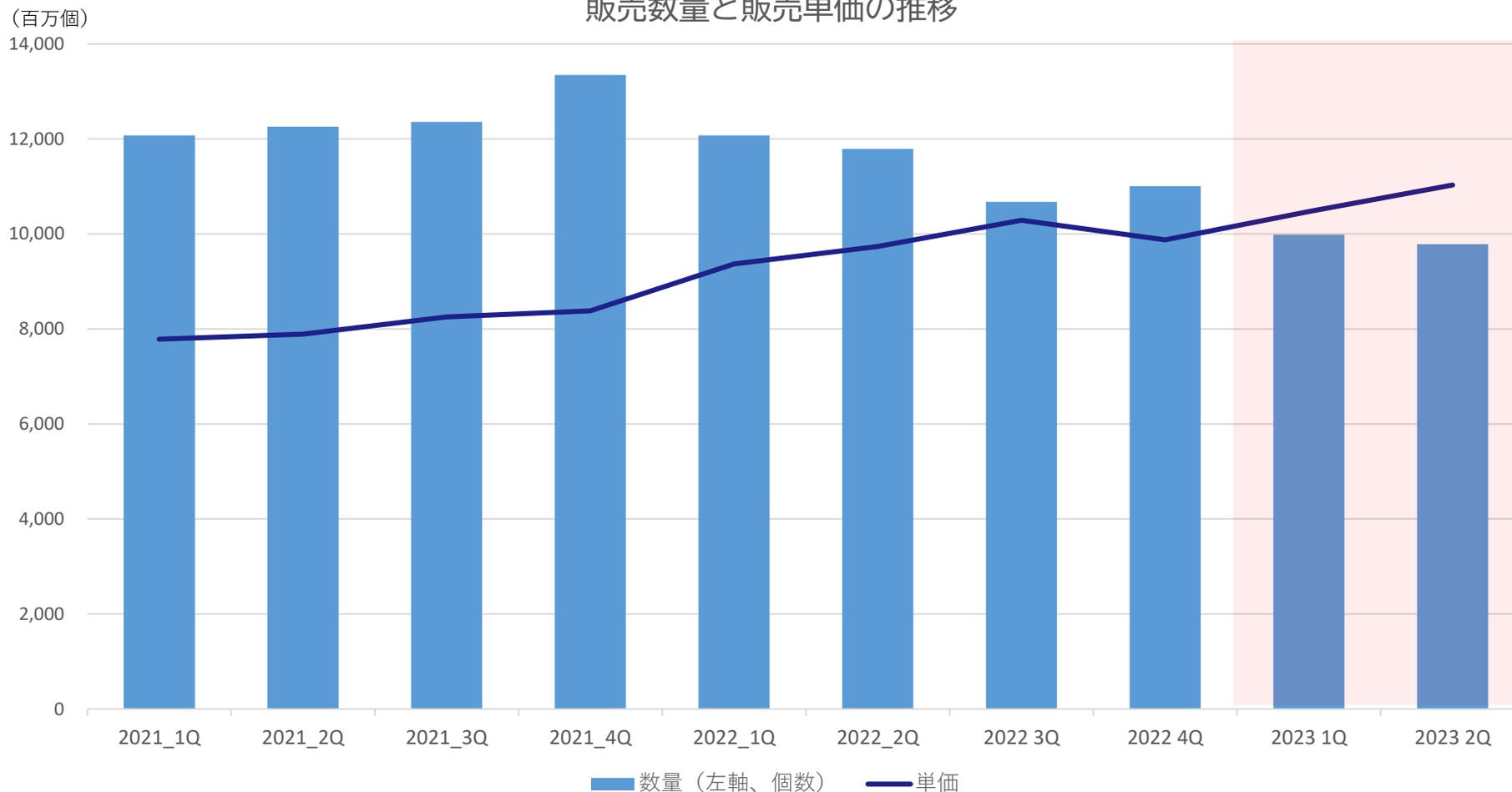
2. 当社の経営環境

	当初（2月時点）コメント	現時点の状況
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年7月～9月まで蘇州工場での生産停止、10月から生産回復の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 5月末に既存工場での生産を停止。6月設備移管完了。7月から立ち上げ。8月から量産出荷。9月からフル生産に移行
	<ul style="list-style-type: none"> ● 蘇州工場で6月迄の在庫積上げ、在庫販売、及び東莞・マレーシア工場への設備移動、増産 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 予定通り。6月から在庫取り崩しによる販売継続
	<ul style="list-style-type: none"> ● 蘇州工場の移転に伴い、海外生産比率を、蘇州：東莞：マレーシア=5：2：2→3：3：3に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 9月から3:3:3の生産体制に移行
	<ul style="list-style-type: none"> ● 移転に伴うコスト負担は約5億円 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画通り変更なし
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッドコンデンサの伸びに合わせて、新商品のバリレスタイプを大幅増産（全拠点）し、新商品の比率を20%へ一気に引き上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「バリレス」の評価に想定以上の時間がかかる。顧客の理解が進んでおり、下期に拡大の見通し
	<ul style="list-style-type: none"> ● バリレス以外の新商品についても車載市場の伸びに応じ、後半の増加を想定 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ EDLC向けの採用が想定以上に拡大
	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載向けEDLC（電気二重層キャパシタ）向けが、徐々に拡大 	
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> ● リード端子技術の要となる新溶接技術の開発に着手（2024年実用化を目標） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ イスラエルのアリエル社との新溶接技術の共同開発を推進
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速回転化（300rpm→350rpm）、可動率（85%→90%）、OEE（設備総合効率）（83%→90%） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高効率・高精度を実現する新溶接技術、新金型技術を開発

販売数量、販売単価の動向

- ・市場環境は厳しい状況が続く
- ・4月からの価格是正実行により平均販売単価が改善

販売数量と販売単価の推移

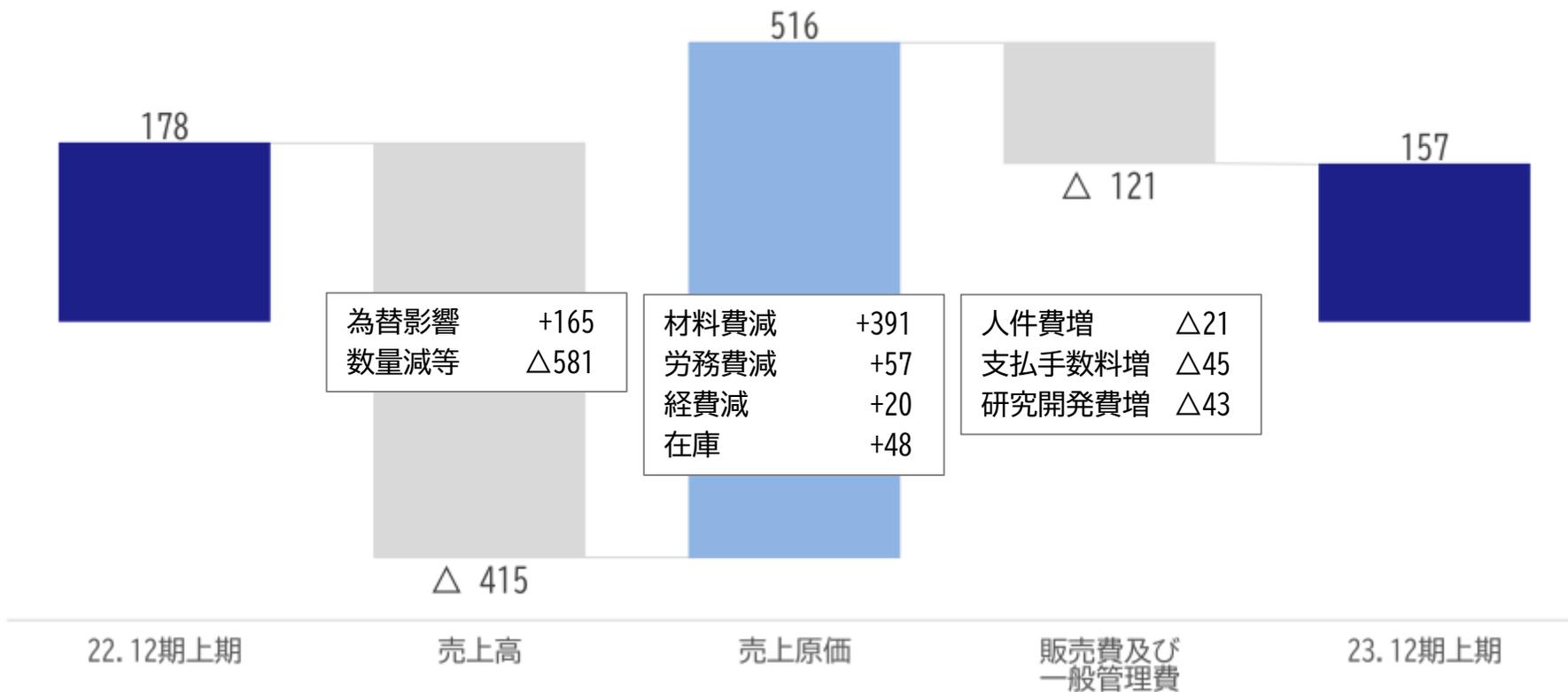


セグメント別

営業利益(2Q累計)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

市況悪化が続き売上は低迷するが価格是正効果により利益を確保

(百万円)

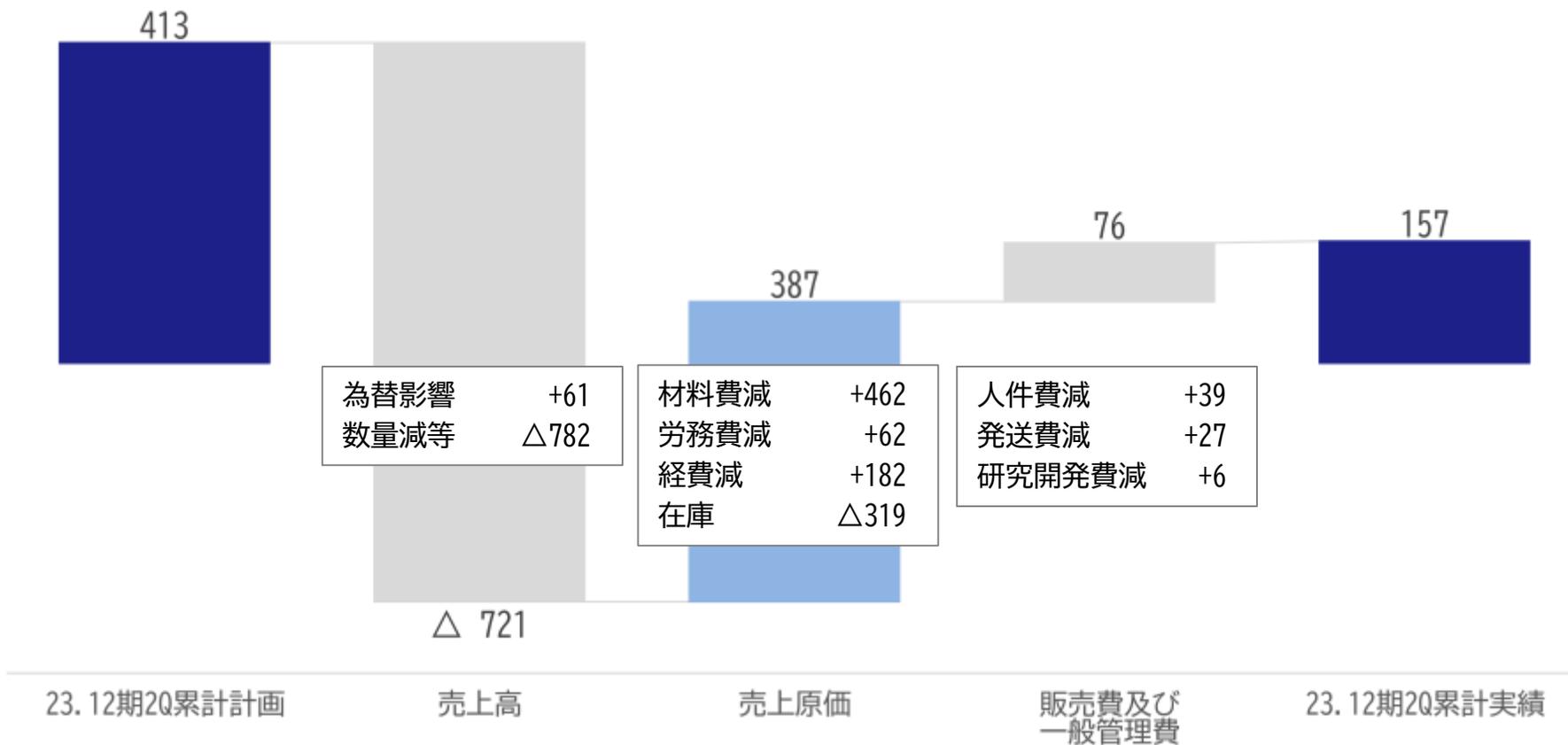


セグメント別

営業利益(2Q累計)の増減要因 (計画比) - リード端子

価格見直しのプラス要因があったが、当初予想よりも市況の落ち込みが非常に大きく、大幅な減益

(百万円)



リード端子事業の見通し

引き続き厳しい市場環境の継続と上期の在庫積み上げの反動により、売上・利益を下方修正

セグメント業績

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期 (計画)			
	実績	通期当初予想	通期修正予想	通期修正予想の前期実績比	
売上高	8,384	9,162	7,508	△875	△10.4%
営業利益	232	699	49	△182	△78.6%
営業利益率	2.8%	7.6%	0.7%	△2.1pt	—

2023年12月期の見通し

- 情報通信機器市場、自動車関連市場ともに厳しい状況が続くと予想
- 価格是正の効果により売上減少による利益のマイナスを下支え
- 新商品売上比率は、上期の遅れを下期挽回に向けて取り組む

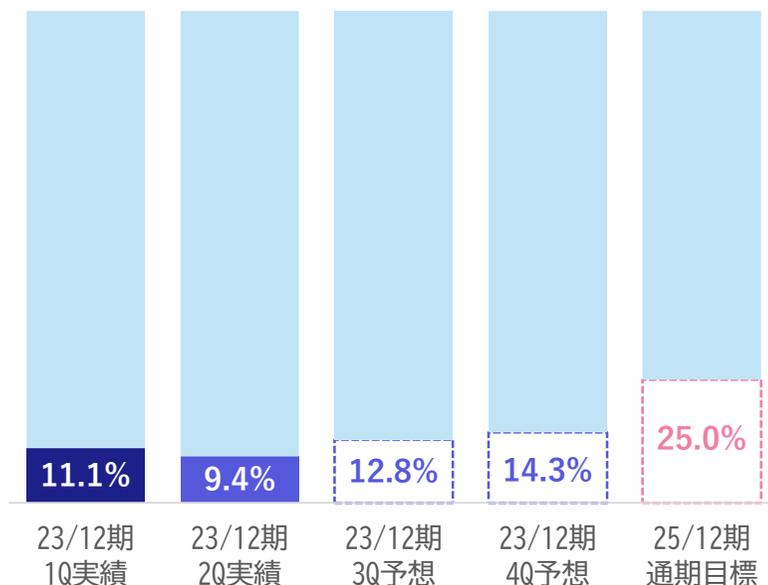
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

1. 新商品の売上比率の改善

新商品の売上比率

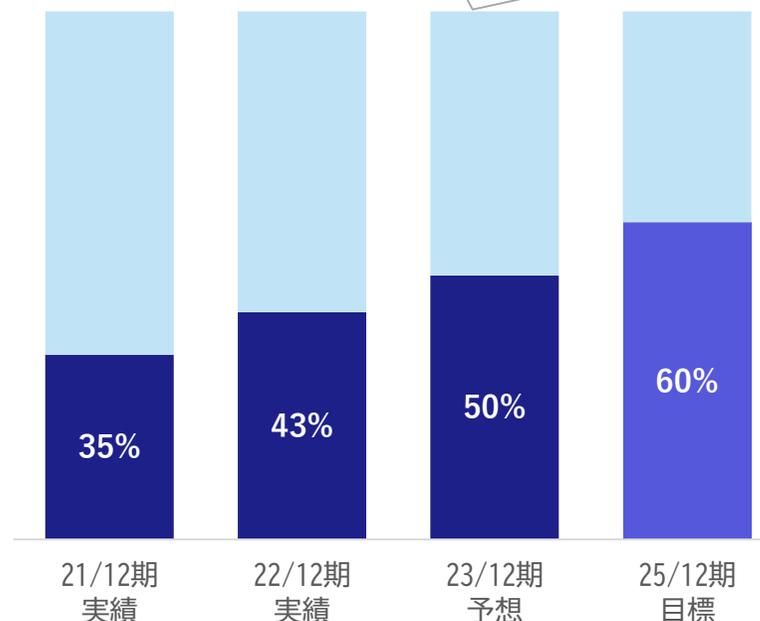


「バリレス」タイプの生産体制を強化、車載用ハイブリッドコンデンサ向けに重点拡販



自動車市場向け売上比率（推定値）

第2四半期の自動車向け売上高比率は、前期（43%）からおおむね変わっていないと推測



顧客の評価が想定以上の遅延。売上比率は予想を下回る見通し

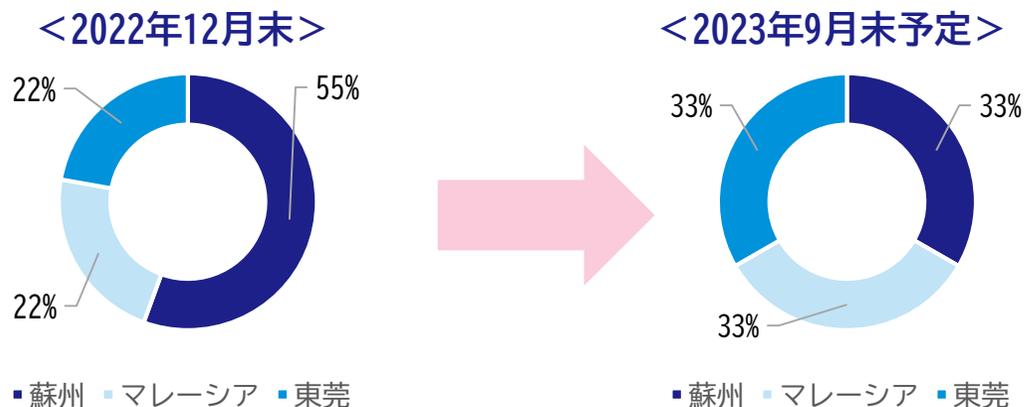
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

2. 顧客別の価格是正交渉進捗状況ほか

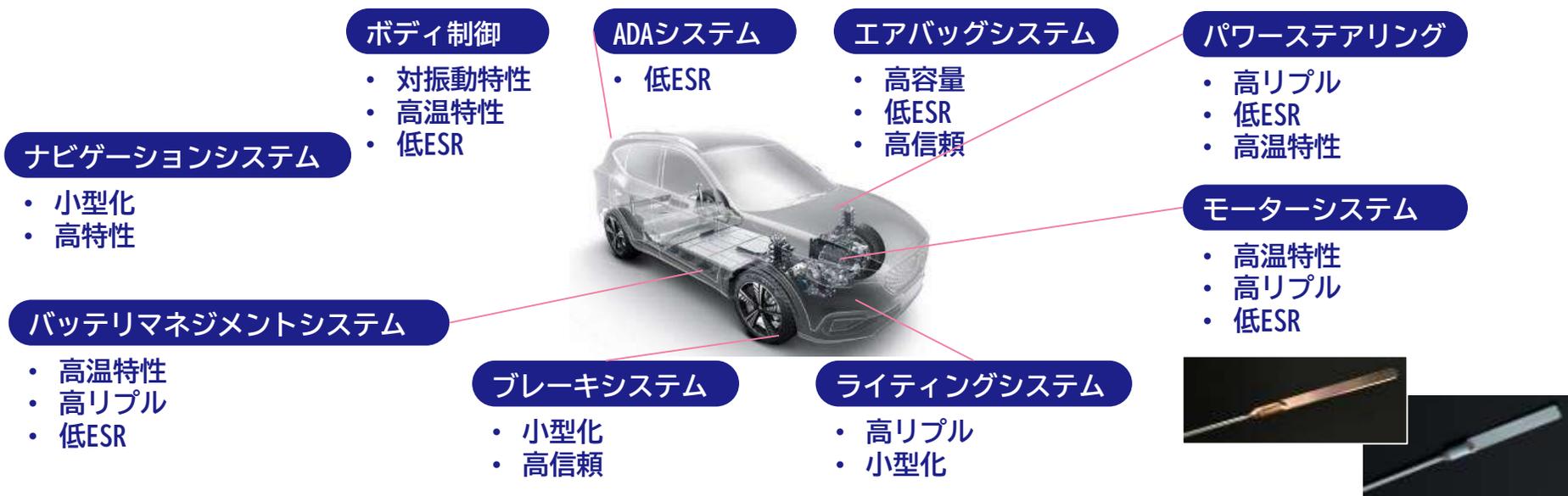
	当初（2月時点）コメント	現時点の状況
(1)価格是正	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要顧客に対して： 3月までに価格見直し交渉完了 4月から実行し、利益改善効果を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画通り実行済み
(2)価格スライド制	<ul style="list-style-type: none"> ● 全主要顧客に対して： 材料価格スライド制導入。スライド算定期間の短期化（最長6ヶ月⇒最長3ヶ月） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スライド算定期間を原則2か月～3か月に短縮

3. 生産体制のリロケーション進捗状況

- ✓ 当初計画より移転を前倒し
- ✓ 5月末に既存工場での生産を停止。6月設備移管完了。7月から立ち上げ。8月から量産出荷。9月からフル生産に移行
- ✓ 在庫積み上げは蘇州工場出荷分の4か月程度積み上げを5月までに完了



自動車用ハイブリッドアルミ電解コンデンサに求められる特徴と当社の技術対応



エリアごとの主要要求特性	
駆動系	・高温特性・低ESR・高リップル
ボディー	・対振動特性・高温特性
安全系	・低ESR・長寿命・高容量
情報系	・低ESR・低背品
共通ニーズ	・高信頼・安定供給体制

コンデンサ特性	リード端子に求められる特性	特性を実現する技術
低ESR (等価直列抵抗)	カシメ性 ※密着性	プレス、洗浄
低漏れ電流	漏れ電流特性、 カシメ性	化成、洗浄
長寿命	漏れ電流特性、 コンタミ(不純物)防止	溶接、洗浄・化成
耐振動	耐振タイプ	溶接、プレス

リード端子事業のトピックス

新技術開発とグループ各工場への水平展開により、生産効率を劇的に改善し、コストダウン、品質のさらなる強化を進める

新しい溶接技術の開発及び展開による生産性・品質の大幅向上

技術開発テーマ

レーザー溶接による高速化、溶接部分の安定化



従来のアーク溶接



レーザー溶接



レーザー溶接機

1st STEP

銅 ⇔ 銅 溶接
(次世代キャパシタ用)

2nd STEP

アルミ線 ⇔ 銅 溶接
(EDLC用)

特許取得

2024年 サンプル供給開始

セグメント別業績(2Q累計) - 光部品・デバイス

海底ケーブル向けはサプライチェーン混乱の影響が残り、陸上用光通信市場が大きく低迷

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期			2023年12月期			
	2Q (1月-6月)	2Q (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	3,753	3,234	△518	△13.8%	1,656	1,577	△79	△4.8%
営業利益	1,864	1,528	△335	△18.0%	817	711	△106	△13.0%
営業利益率	49.7%	47.3%	△2.4pt	—	49.3%	45.1%	△4.2pt	—

2023年12月期(2Q累計)の概況

● 在庫調整の影響が続く

- 海底ケーブル向けは、一部サプライチェーンの混乱の影響が残り減収
- 陸上用光通信向けは、米中摩擦に伴う禁輸措置により、一部顧客との取引がゼロ化するなど、極めて厳しい状況が続く

● 研究開発と生産性向上に向けた投資

- 新製品開発、自動化ラインの導入などの施策は順調に進捗
- 将来技術に注力。10月にKDDI総合研究所と共著のMCF(マルチコアファイバ)技術に関する論文を、学会で発表予定

市場環境・経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

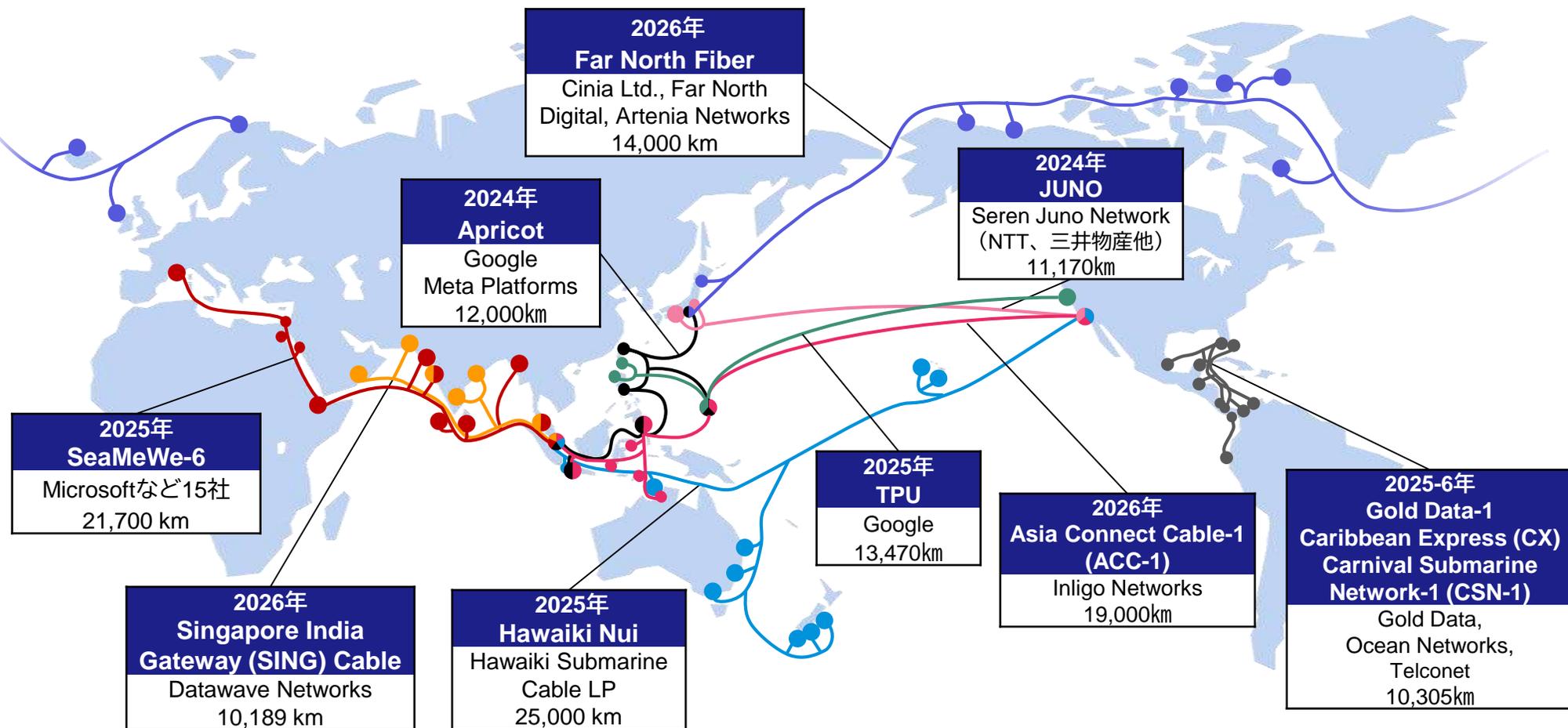
	当初（2月時点）コメント	現時点の見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 海上ケーブル市場は高速大容量化の傾向が継続することから引き続き堅実な市場成長を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 上期のサプライチェーン混乱の影響は下期に収束の方向へ向かう ➢ 一部顧客からの長期一括受注が売上に寄与 ➢ 陸上光通信向けは、米中摩擦に伴う禁輸措置などにより非常に厳しい状況が続く

2. 当社の経営環境

	当初（2月時点）コメント	現時点の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 多芯化(32ファイバーペア以上)に対応した新製品開発 ● マルチコアファイバ/衛星通信光デバイスなど2030年以降に向けた技術開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 32FP対応の新製品サンプルを2024年に出荷開始（2024年～2025年にかけて順次量産予定） ➢ マルチコアファイバ用光デバイスのサンプル出荷を開始
(2)生産性ほか	<ul style="list-style-type: none"> ● 半自動生産装置の導入 ● BCP体制を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2024年からスリランカ工場で本格量産をスタート ➢ 光デバイスの前工程拠点（本社工場）にて洪水対策完了 本社BCP体制強化（2023年5月）

2024年以降も新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

世界的な通信インフラの強化に伴う海底ケーブルネットワークへの投資が続く



※2024年～2026年にサービス開始予定の1万KM以上のプロジェクト

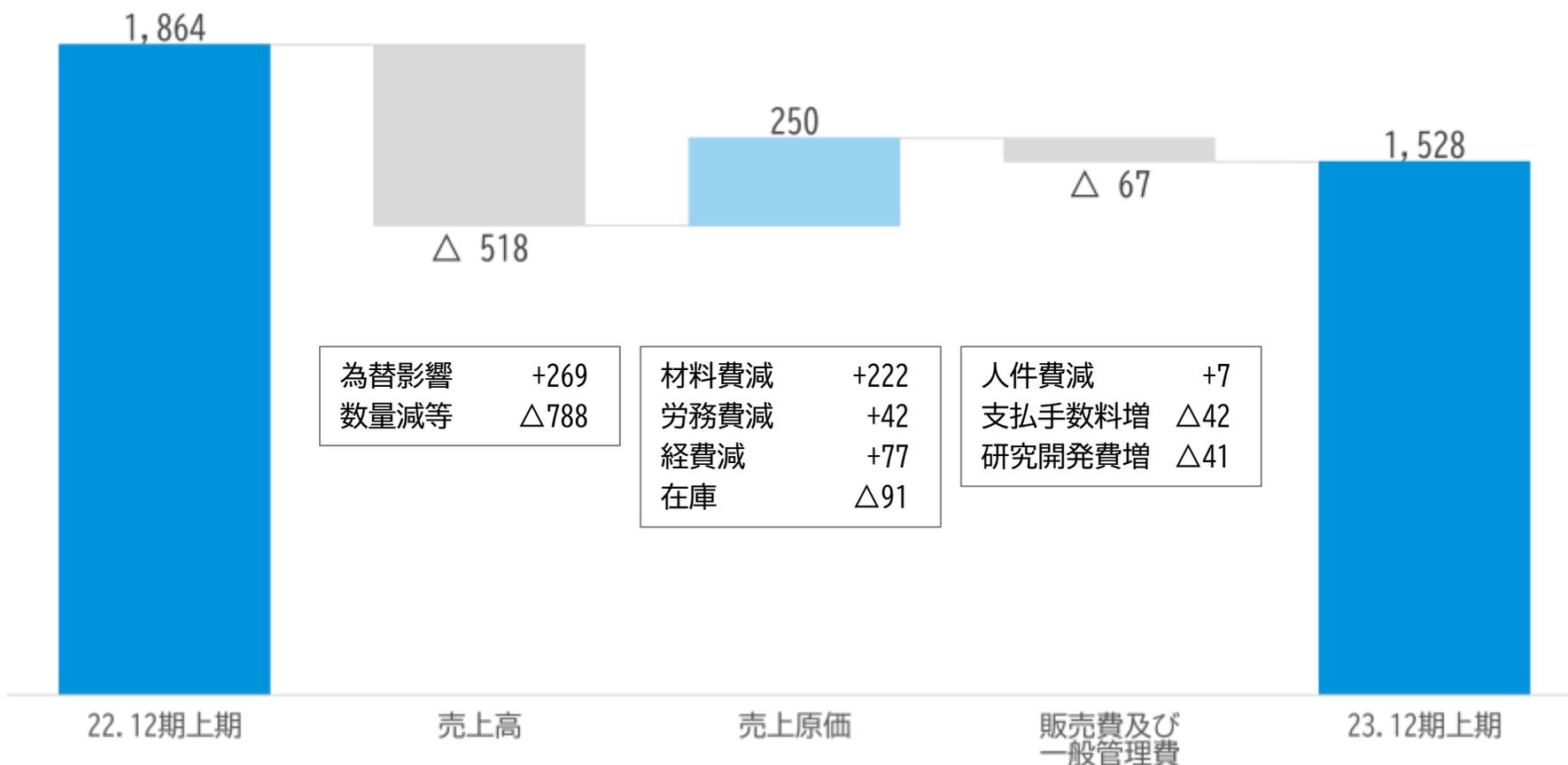
※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

セグメント別

営業利益(2Q累計)の増減要因 (前年同期比) - 光部品・デバイス

陸上用光通信デバイスを中心に数量減少、大幅減収

(百万円)

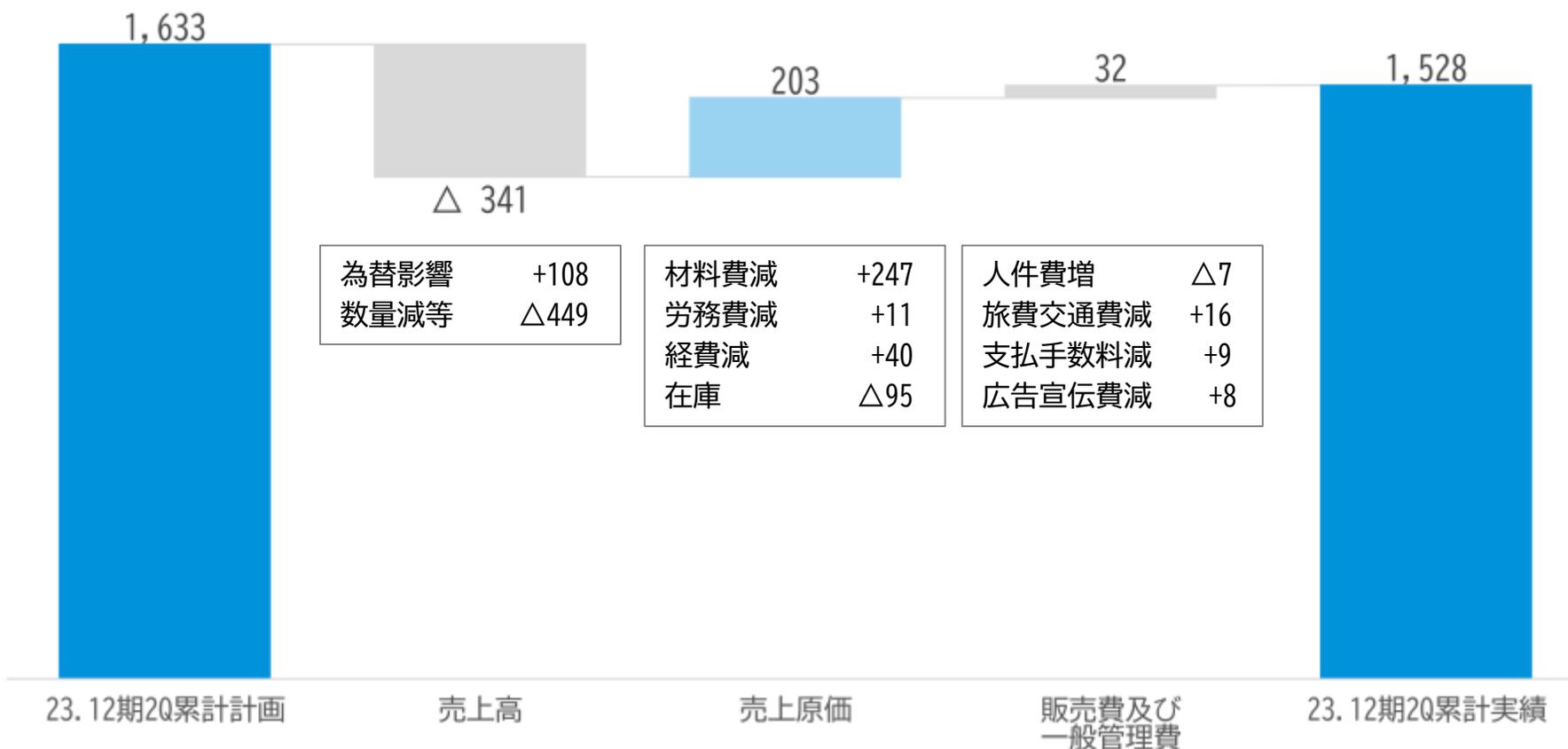


セグメント別

営業利益(2Q累計)の増減要因 (計画比) - 光部品・デバイス

陸上用光通信デバイスの売上減少、若干の減益にて着地

(百万円)



光部品・デバイス事業の見通し

陸上用光通信デバイスは厳しい状況が続くが、海底用光ケーブル市場に明るさが見え始める

セグメント業績

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期 (計画)			
	実績	通期当初予想	通期修正予想	通期修正予想の前期実績比	
売上高	7,289	7,331	6,981	△307	△4.2%
営業利益	3,652	3,422	3,361	△290	△7.9%
営業利益率	50.1%	46.7%	48.2%	△1.9pt	—

2023年12月期の見通し

- 海底ケーブル市場は、在庫調整から徐々に回復、正常化に向かう見通し
- 高速大容量を支える海底ケーブルの多芯化を実現する各社の技術革新をサポート、全方位で開発を進める

海底ケーブル関係 次世代技術ロードマップ

成長要因	内容	2020年	2025年	2030年	2035年	
インフラの強化	FP数 MCF (コア数)	16FP	24FP MCF (2コア)	32FP以上 MCF (4コア)		
	ケーブル敷設距離	毎年10万km以上の敷設との想定				
	敷設距離 × ペア数	2020年	2025年	2030年	2035年	
技術進化ロードマップ	多芯化	小型光アイソレータ	複合品 光アイソレータ + 光フィルタ	光モジュール 複数の機能を一体化	<p>ファンインファンアウトデバイスの使われ方(推定)</p>	
	MCF化	ファンインファンアウトデバイス (FIFOデバイス)	MCF用光アイソレータ	小型化	複合化	多コア化
	衛星通信	衛星通信用光デバイス		製品化	[超高空下での高信頼デバイス]	
SCMの強靱化		2022年 半自動化 ライン試作	2023年 スリランカ 量産試作	2024年 スリランカ 量産	2025年以降 既存拠点を利用して複数拠点化／新生産拠点の検討	

トピックス - 光部品・デバイス事業

高純度石英ガラスの製造技術SSG®（スラリーキャスト石英ガラス）

特殊プリフォーム製造装置 特許を国際出願

高純度石英ガラス製品の製造技術SSG®に用いる特殊プリフォームの製造装置の特許を国際出願しました。

今回、国際特許出願を行ったプリフォーム製造装置を用いて、従来にない高密度に配置された多孔形状、及び切削加工では実現が難しい断面形状のプリフォームの製作をすることが可能です。

この製造装置については、既に日本国内での特許を取得しており、現在、PCT 出願を完了し、外国での権利化追求を進めています。

<特殊プリフォームの事例>



Φ1mm×100 穴プリフォーム



PCF プリフォーム
(カットモデル)

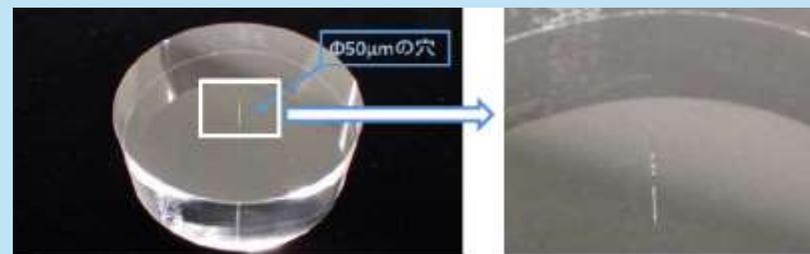
微細孔（Φ50μm）加工技術を確立

SSG®を用いてドリルやレーザーでは加工が困難な極細穴を開ける技術を確立しました。

穴径、穴配置の精度の優れたプリフォーム等の石英部品を製作することが可能になります。

また、SSG®は、合成石英相当の純度を有するため、半導体製造プロセス技術、金属の特殊な性質を引き出す加工技術など、高い融点を持つ石英の特長を生かした様々な産業用途向への応用展開が期待されます。

<SSG®を用いて製作した石英部品の事例>



(微細孔加工を施したプリフォーム) (Φ50 μmの微細孔 拡大)

Ⅲ. その他

株主還元の推移

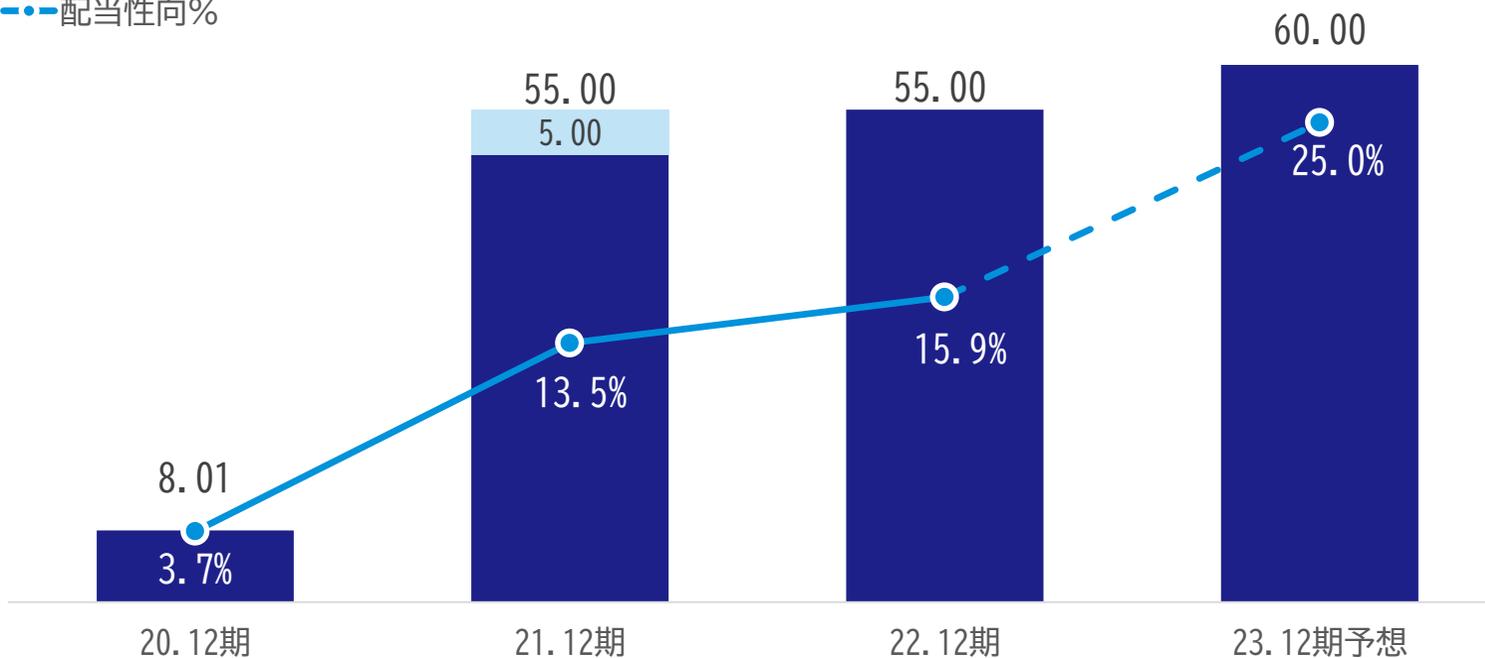
株主還元充実の方針に基づき、今期の一株当配当金は5円増配の予定（当初予想通り）

<株主還元方針>

- ・ 持続的な成長に向け、設備投資・研究開発投資・M&Aなどに積極的に資金を投入するとともに、当面、一定程度の内部留保も行ない財務体質の強化をはかる。
- ・ 株主還元については中長期的に連結配当性向30%を目標とし、株主還元の充実をはかる

配当金／配当性向の推移

■ 1株当たり配当（円） ■ 記念配当（円）
- - - 配当性向%



非財務への取り組み、KPI及び進捗状況

- ・サステナビリティ関連委員会組織を立ち上げ、非財務に関する活動を強化する予定
- ・CDP（気候変動対策）調査に対する情報開示、報告対象を単体から連結ベースへ拡大（7月回答済み）

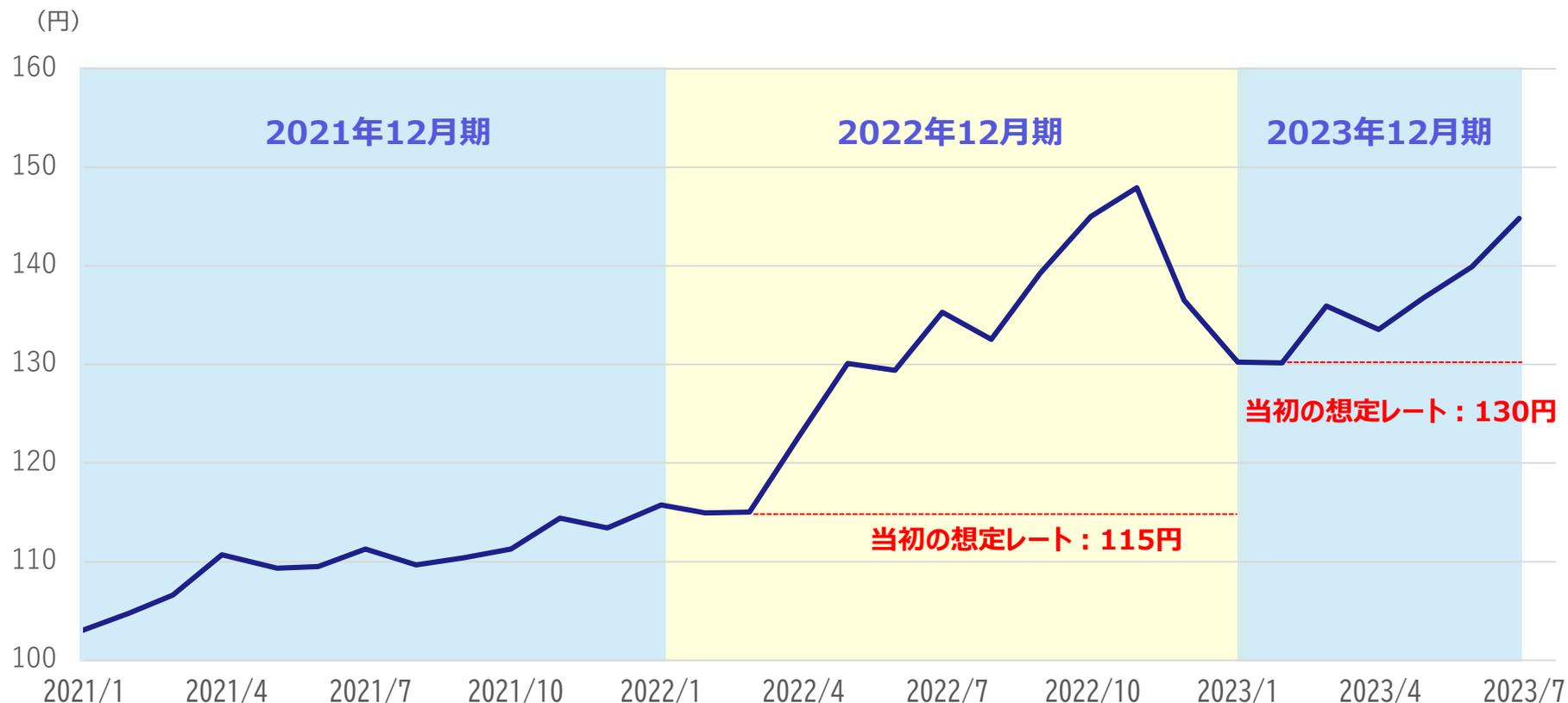
項目	重要課題 (マテリアリティ)	具体的取り組みテーマ	KPI(評価尺度) 事例	達成 状況	1～2Qの活動状況	
E 環境	地球環境保全・環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ■CO2削減に寄与する装置の導入 ■太陽光等再生エネルギーの利用比率を増やす ■節電装置の導入/デマンド装置での調整によりCO2排出削減に取り組む ■「山門水源の森の保全」活動との連携 ■ペーパーレス(リデュース)の推進 ■光部品・デバイスの生産性を向上し、資源を有効利用 ■結晶育成工程・KECS・KLAの省電力化 ■不良数の削減 ■グローバルで水の再利用を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係維持強化 ●リード端子：本社製造部2024年 99%削減(2021年比) ●生産性(歩留、工数など) 2022年～ 前年比5%改善 ●電力使用量(原単位当たり) 2022年～ 前年比5%の削減 ●不良率 2024年 38.3%削減(2021年比) ●リード端子 水使用量 2024年 6%削減(2021年比) 	○	中国蘇州工場移転に伴う「江蘇省汚染防止条例」に適合(環境アセスメント)する排出・排気の達成(リン・窒素「0」)	
		<ul style="list-style-type: none"> ●「山門水源の森の保全」活動との連携 ●「長浜市への美術教材」寄附を継続 ●「近隣のカーミラー清掃・ゴミ清掃」活動を推進 	○	特記事項無し		
S 社会	グローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ■本社：専門知識及びマネージメントスキルの指導、育成を推進 ■海外：業務のOJTと取巻くビジネス環境のOFF JTを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●本社の業務に必要な専門知識の取得 2022年～ 2件/年 ●海外の業務に必要な専門知識の取得 2022年～ 3件/年 	○	各種研修、教育を推進中	
	多様な個性を尊重し、能力を	<ul style="list-style-type: none"> ■ダイバーシティ&インクルージョン(包摂)の推進 ■人権尊重のための啓発活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営優良法人認定 2023年取得 ●現状有休取得率の調査 2022年～前年比5ポイント増 	○	2023/3健康優良法人認定 2023/3 女性取締役就任	
	安全で働きがいのある職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■安全衛生諸施策の推進 ■パート社員の適正評価 	<ul style="list-style-type: none"> ●社員満足度調査の活用 調査&改善実施 1回/年 ●パート社員の評価制度導入 	△	ハラスメント調査や、健康アンケートの実施 評価制度改善検討中	
	人権・多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ■本社：女性・外国人従業員の能力を活かした人材育成 ■海外：女性・外国人従業員の監督職・管理職比率を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性・外国人従業員の監督職(リーダー)・管理職比率：2022年～ 前年比5%アップ ●キャリアアップ研修受講率：2022年～3年計画 15%アップ 	○	女性管理職0名→1名	
	世の中にない新製品の開発・提供	<ul style="list-style-type: none"> ■技術革新に貢献する新しい光部品・デバイスを実現 ■省エネルギーに貢献する光部品・デバイスを実現 	<ul style="list-style-type: none"> ●新製品比率(売上高) 2024年 15%以上 ●省エネルギー 製品比率(売上高) 2024年 15%以上 	○	現状10%	
	製造技術及び品質保証体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■高い技術で生産性と品質向上を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ●OEE(総合設備効率) 2024年 88%(新溶接技術を含むと90%) 	△	工場再編に伴う設備移動でOEEが横ばい	
	地域社会との共存共益	<ul style="list-style-type: none"> ■社会貢献の取り組みを推進 ■「山門水源の森の保全」活動との連携 ■「長浜農高」への奨学金プログラムを推進、 ■「長浜市への美術教材」寄附を継続 ■「近隣のカーミラー清掃・ゴミ清掃」活動を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献活動の資金拠出基本方針 対当社連結経常利益(過去3期平均) 0.5%から1% 	○	2023年秋にイベント企画中	
	G ガバナンス	サプライヤーとのパートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ■公正取引の推進(ステークホルダーマネジメント) ■コンプライアンス教育・研修の強化 ■内部通報制度の活用 ■所有する情報・知的財産を適正に管理・活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●評価スコアの仕組みを検討し実施 評価スコア 2023年～ 前年比5%アップ 	○	サプライチェーン評価システム導入
		コーポレートガバナンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ■情報システム・セキュリティについて適切な対策を取る ■サステナビリティ基本方針の策定(CGコード3-1③、4-2②) ■英語での情報開示(3-1②) ■事業ポートフォリオの方針作成(5-2①) ■その他 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンスコードへの継続的な対応 	○	ハラスメント研修など適宜実施 今年度、利用1件 知財委員会にて管理 ○ 2023/6 セキュリティ対応訓練、セミナー実施 △ サステナビリティ委員会検討 ○ 2022/11以降継続実施中 × ○ 取締役会の実効性評価実施

IV. 参考情報

2023年12月期(2Q累計)の事業環境

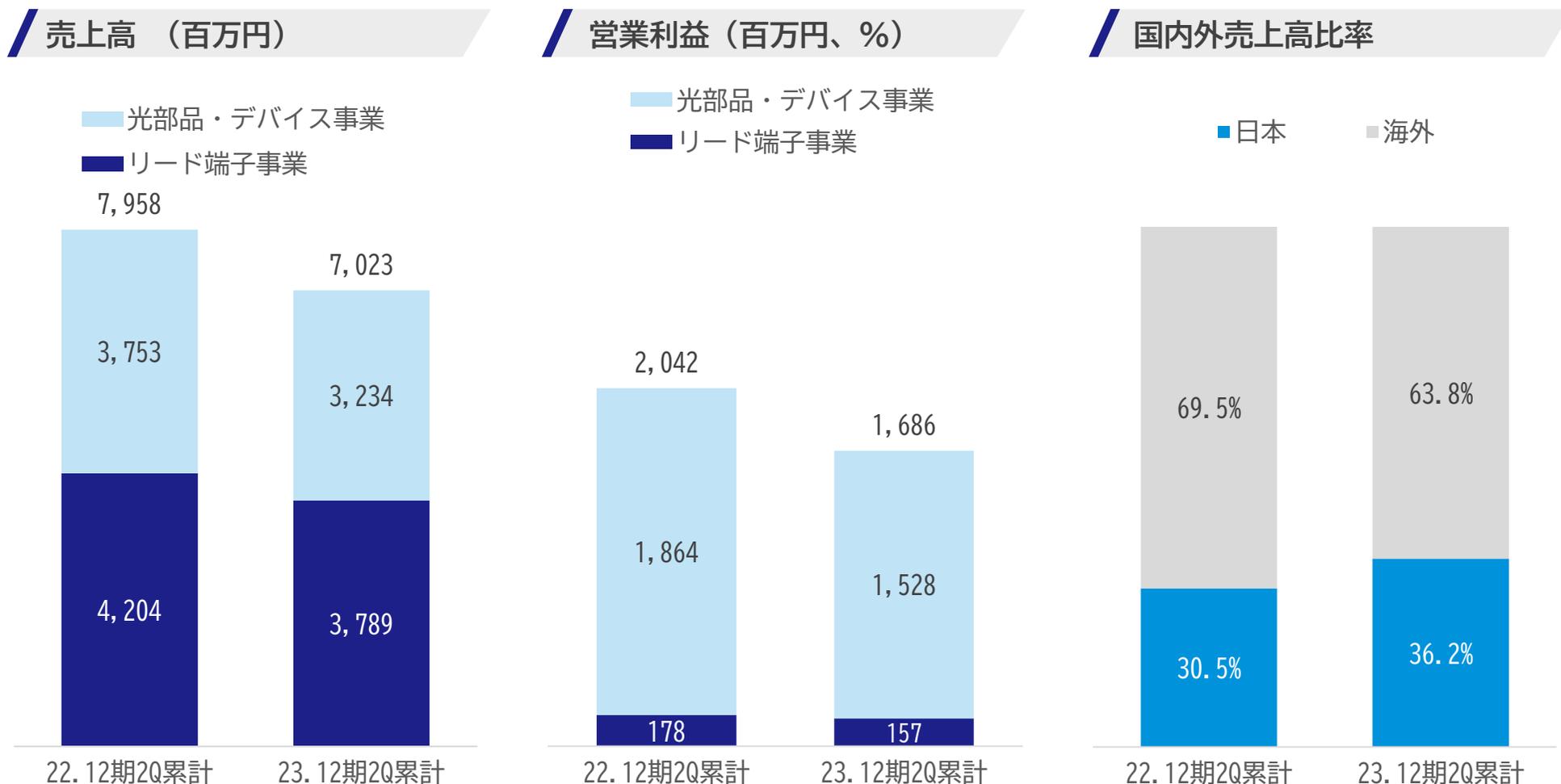
1-6月の期中平均レートは、134.99円/USDとなり、想定為替レートよりやや円安で推移

USD/JPYトレンドグラフ



セグメント別業績及び国内外売上高比率(2Q累計)

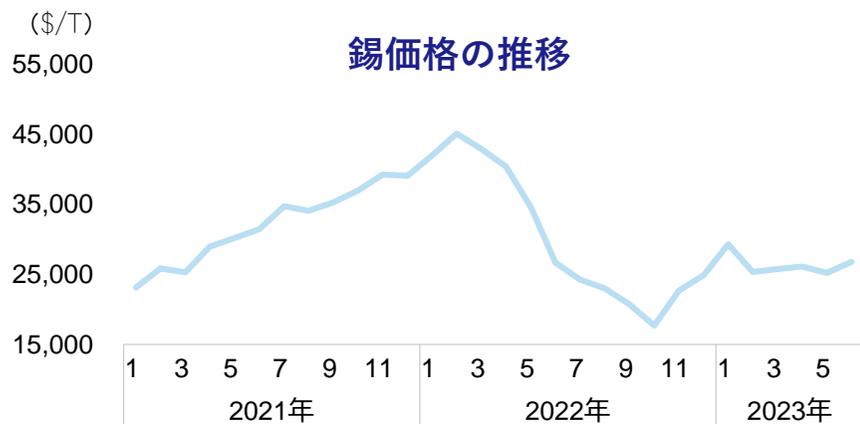
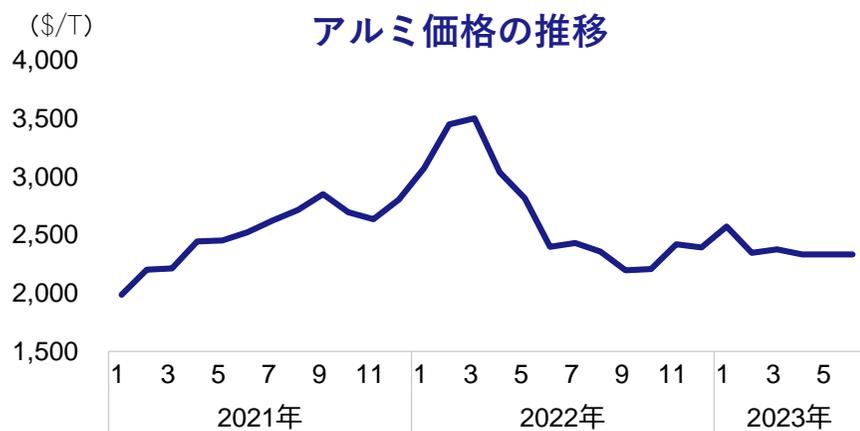
・リード端子、光部品・デバイスともに売上は前期比10%前後の減少



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転し、大きな変動がなく推移

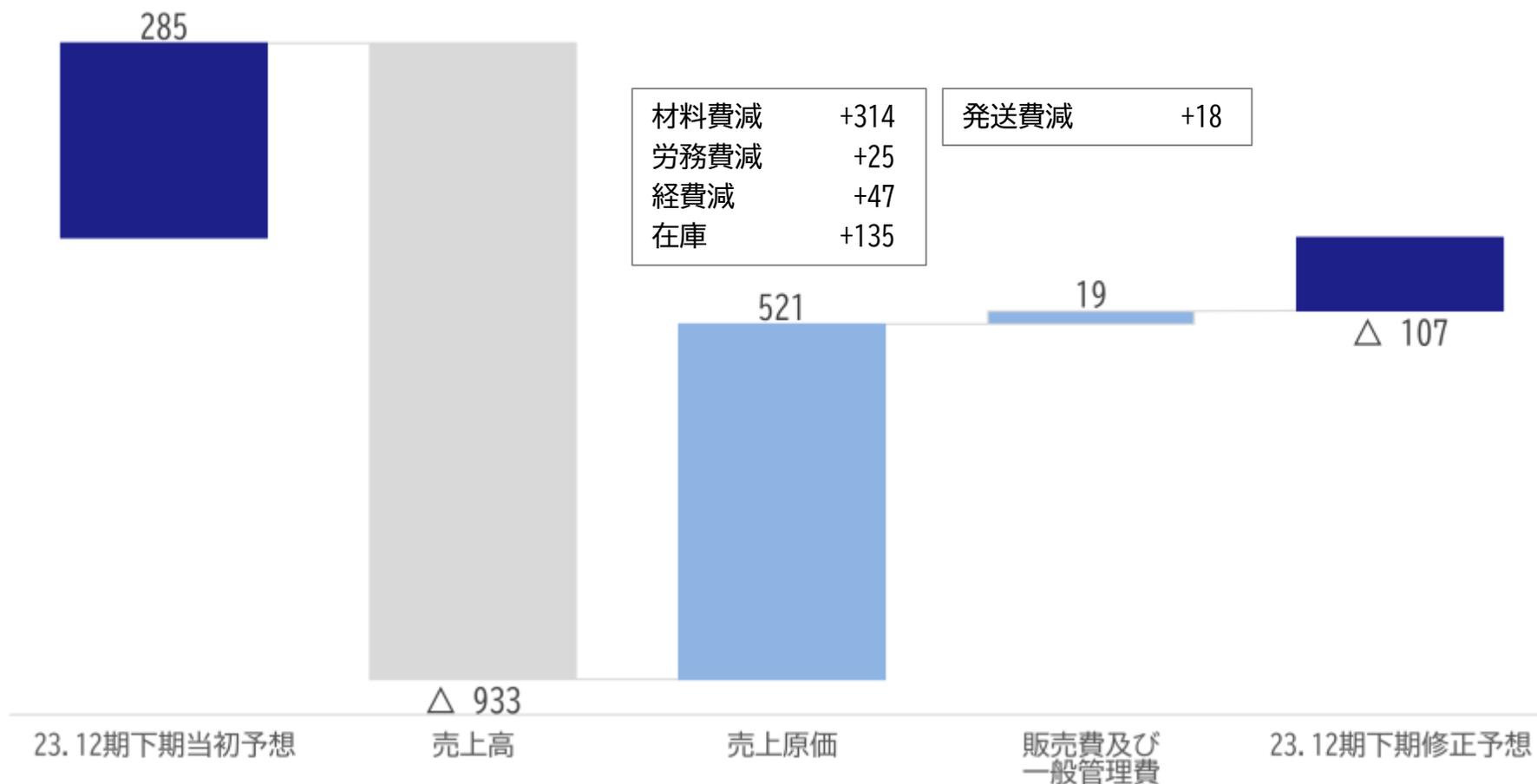
非鉄金属相場（LME）の推移



下期当初予想vs修正予想 リード端子

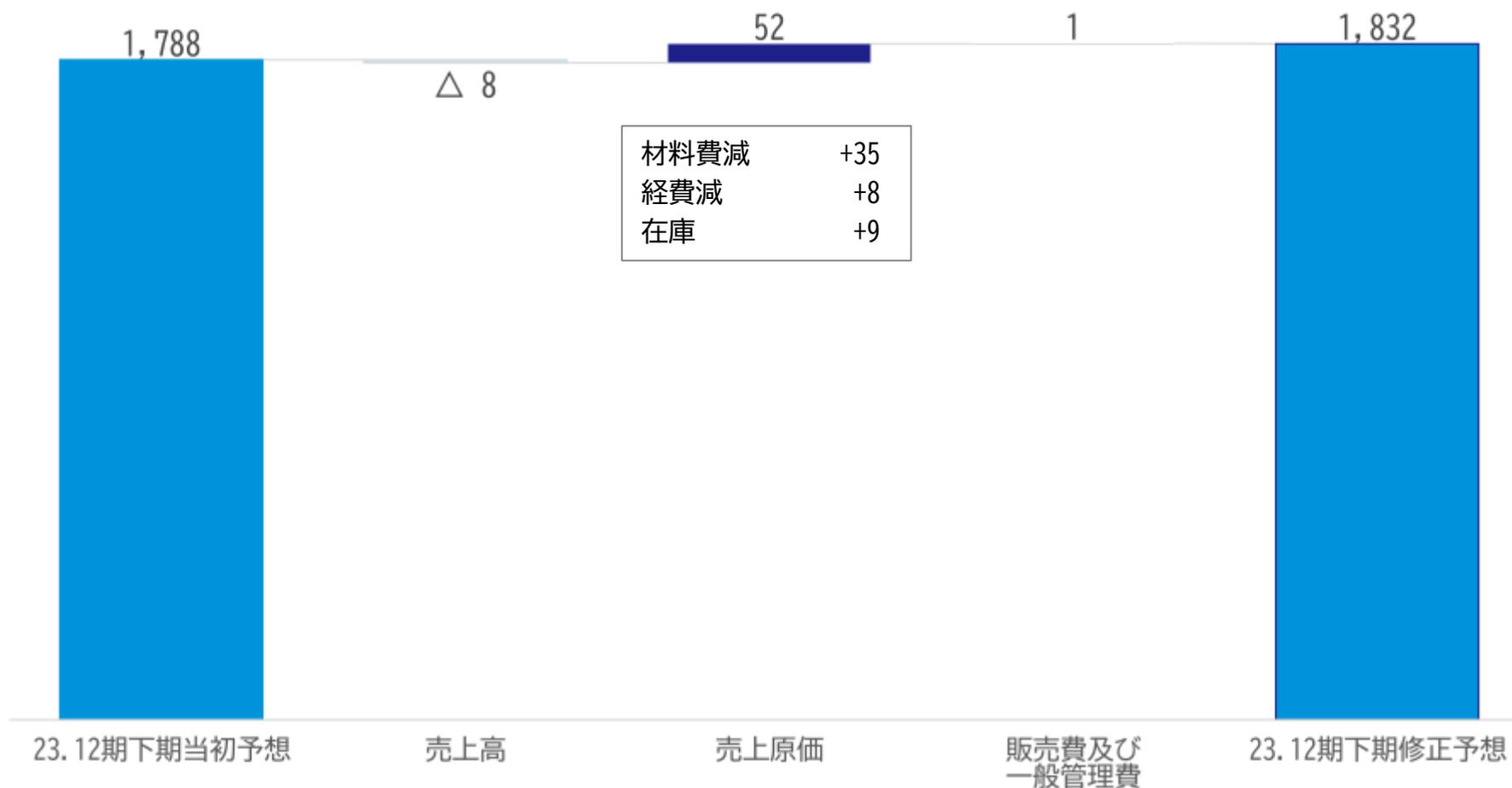
市場環境が想定以上に厳しく、下期業績は下方修正

(百万円)



下期当初予想vs修正予想 光部品・デバイス

おおよそ計画通り 海底ケーブル向けの受注増が陸上光通信向けの落ち込みをカバー



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR室

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217